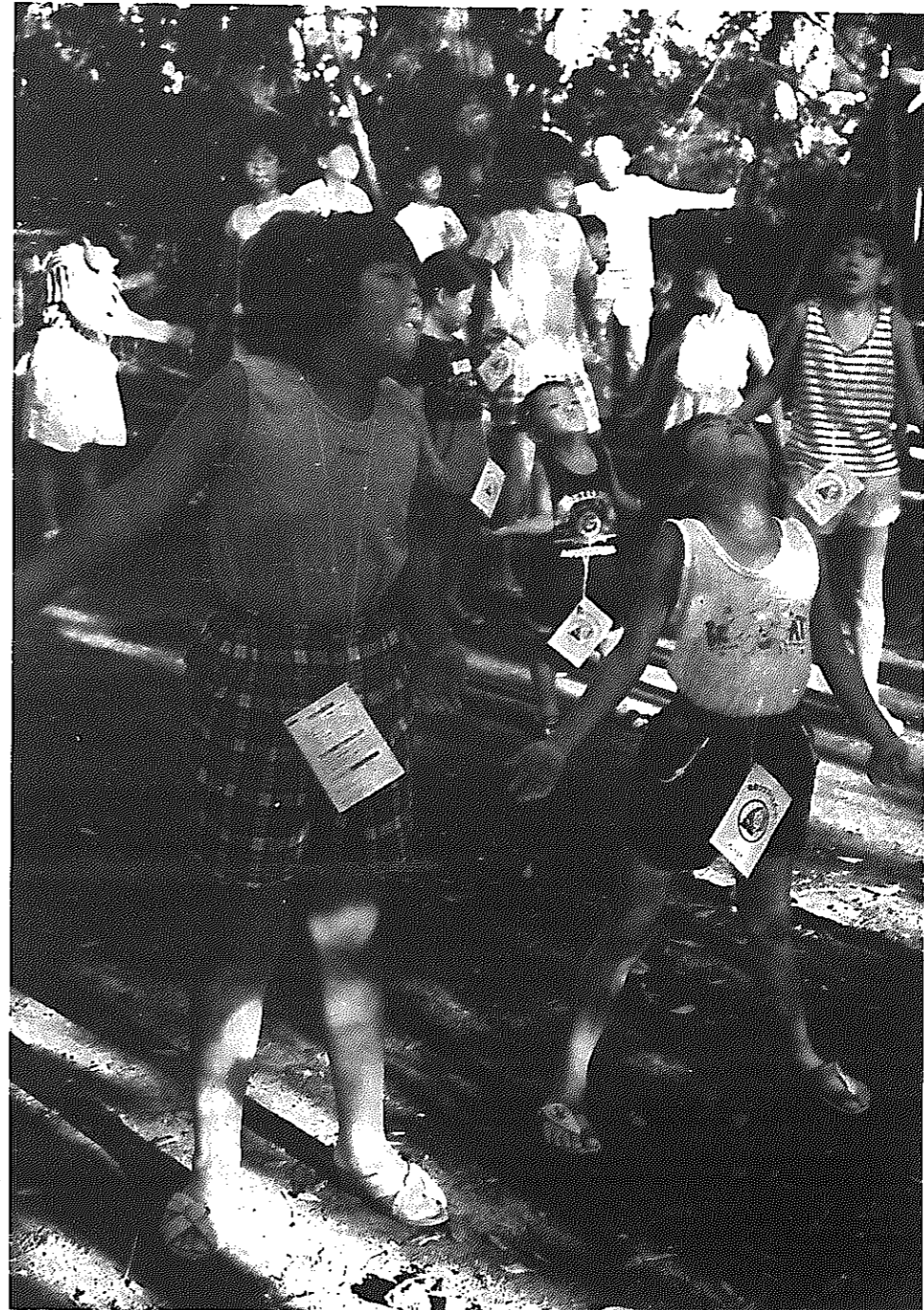


学校週5日制9月スタート

国公立学校で一斉に第2土曜日が休みに



今月から、全国の国公立の小学校、中学校、高等学校などで「学校週5日制」が実施され、毎月第二土曜日が休みになります。明治以来一世紀以上にわたって続いた「週六日制」にピリオドを打つことになりました。月曜日から土曜日まで通うのが当然のように思われていた学校。社会全体が大きく変化の中で、時代の流れと共に、学校教育も大きく変わろうとしています。今回の制度は、学校や家庭、地域での教育の在り方を見直しながら、これからの時代を担う子供たちの望ましい人間性を育てようという狙いがあります。いずれにしても「学校週5日制」の主役は子供たちです。子供たちが主体的に休日を通せるよう、家庭や地域で大人たちがサポートしながら見守っていく必要があります。

学校週5日制の目的は……

個性や創造性を伸ばす教育が狙い

文部省では「学校週5日制」について二年前から、全国六十八校をモデル校に指定し、調査・研究してきました。「学校週5日制」は、学校や家庭、地域での教育の在り方を見直しながら、これからの時代を担う子供たちの望ましい人間性を育てようというのが目的です。

個性や創造性を伸ばす教育が狙い

子供は学校、家庭、地域社会を生活の場としていますが、近年の社会変化に伴い、それぞれの教育機能が十分に発揮されていない状況にあります。学校教育は知識の伝達に偏り、画一化、硬直化しているという指摘があります。一方、家庭や地域での子供の生活は、遊びや自然体験、生活体験が少なくなっています。また、家庭が多くの部分を学校教育に依存する傾向もあります。今回の「学校週5日制」の実施は、このような現状を改め、社会の変化に主体的に対応できる人間形成をするために行われるものです。休日が多くなれば、子供たちの家庭や地域社会での生活時間が増え、違う年齢の友人と遊んだり、自然体験や社会体験を増やすことができます。それにより、個性や創造性を伸ばす教育に大きく一歩を踏み出すことになるのです。

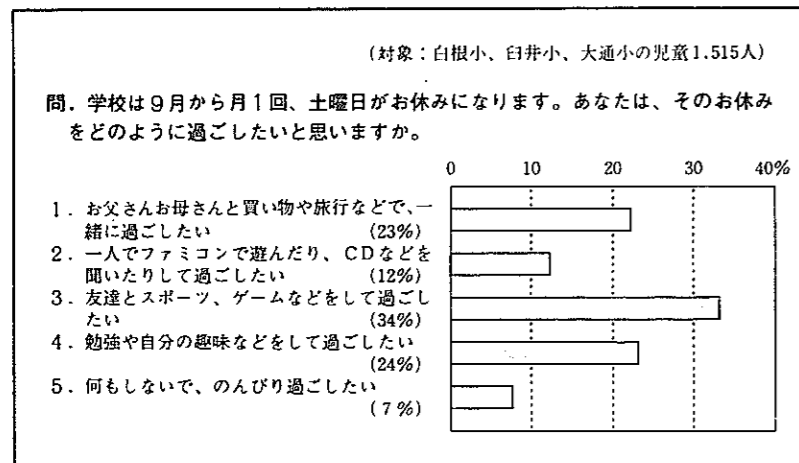
小学生を対象に、九月からの月一回の土曜休業日をどう過ごすかという質問に対し「友達と遊ぶ」が三四％、「趣味や勉強など」が二四％、「父母と過ごす」が二三％となっています。また、保護者の意識調査では「家族がいる」五一・九％、「子供だけで過ごさせる」二七・七％、父母どちらかが休みを取る「二・八％」となっています。

このような意識調査を受けて、この制度の円滑な導入を進めるため、教育委員会では「学校週5日制推進会議」を設置しました。この推進会議のメンバーは、PTA代表、地区青少年健全育成協議会代表、市校長会代表、社会教育関係付属機関委員代表など三十人で構成。特に学校の土曜休業日に、父母などの家族が不在となる小学校低学年の児童に配慮した対応策を検討しています。

●表1 第2土曜日の家族在宅状況調査 調査日 平成4年5月9日

学校名	調査人数	在宅家庭	留守家庭	学校名	調査人数	在宅家庭	留守家庭
新飯田小	165人	145人 (87.8%)	20人 (12.2%)	大通小	478人	362人 (76.0%)	116人 (24.0%)
茨首根小	163人	152人 (93.0%)	11人 (7.0%)	小学校計	3,052人	2,637人 (86.4%)	415人 (13.6%)
庄瀬小	277人	249人 (89.9%)	28人 (10.1%)	新飯田中	103人	88人 (85.4%)	15人 (14.6%)
小林小	312人	292人 (93.9%)	20人 (6.4%)	庄瀬中	152人	127人 (83.5%)	25人 (16.5%)
白根小	819人	668人 (81.6%)	151人 (18.4%)	第一中	589人	391人 (66.4%)	198人 (33.6%)
白井小	205人	190人 (92.7%)	15人 (7.3%)	白井中	152人	127人 (83.6%)	25人 (16.4%)
戸石小	77人	73人 (95.0%)	4人 (5.0%)	北中	466人	341人 (73.2%)	125人 (26.8%)
大鷲小	273人	233人 (85.0%)	40人 (15.0%)	中学校計	1,462人	1,074人 (73.5%)	388人 (26.5%)
根岸小	283人	273人 (96.5%)	10人 (3.5%)	合計	4,514人	3,711人 (82.2%)	803人 (17.8%)

●表2 学校週5日制の児童の意識 調査日 平成4年7月20日



学校週5日制推進会議を設置

学校は月曜日から土曜日まで通うもの——と、当然のように考えられていた制度が変わるうとしていくわけですから、保護者の間に不安や疑問の声があるのも事実です。そこで「学校週5日制」実施を前に、白根市校長